



がんセンターだより

第 58 号
令和元年11月1日 発行
発行責任者
病院長
坂本 裕彦

基本“唯惜命”
理念

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、がんで苦しむことのない世界をめざします。

目次

● 病理診断ってご存知ですか？.....	1
● 周術期センターの紹介／通院治療センターの紹介.....	2
● JCOGとかかわった30年／研究所から.....	3
● 埼玉県民のための“がんの集い”.....	4



埼玉県のマスコット コバトン

病理診断

ってご存知ですか？



病理診断科 副部長 堀井理絵

患者さんのからだから採取された組織や細胞を顕微鏡で観察し、病変の有無や種類・状態について判断することを「病理診断」といいます。がん診療においては、まず、問題となっている

病変ががんかどうかを確定するのに病理診断が大きな役割を果たします。さらに、がんであった場合には、そのがんの個性や状況を診断します。がんの個性や状況を知ることによって、適切な治療法を選択することができます。質の高いがん診療を行うためには、適切な病理診断が不可欠です。

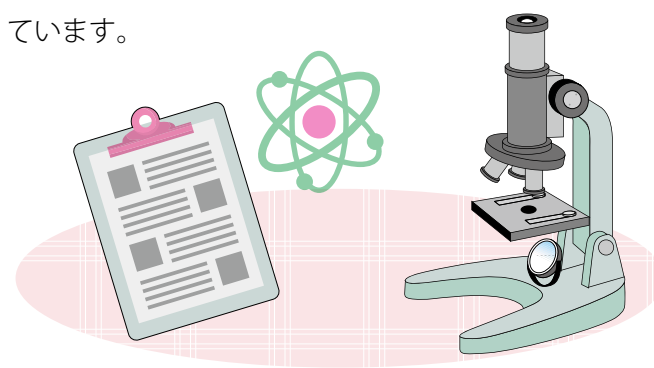
当科では、肝臓と骨軟部腫瘍を専門とされている神田浩明部長のもと、4人の病理・口腔病理専門医が常勤医として働いています。さらに、各分野のオーソリティーの先生方を非常勤病理医としてお招きしています。いずれも、適切な病理診断を迅速に提供することを念頭に、日々、顕微鏡と格闘しています。組織や細胞を顕微鏡で観察するためのガラス標本作製するのは臨床検査技師です。当科には12名の臨床検査技師が勤務しています。

私は、本年4月1日にがん研究会有明病院病理部より当院に異動してきました。乳腺腫瘍を専門としており、前任地では乳腺病理診断の第一人者である秋山太先生もと、多くの症例を経験し、研鑽を積んできました。また、日本乳癌学会の評議員として、乳癌取扱い規約や乳癌診療ガイドラインの作成にも携

わっています。

ここでは、乳がんを例に、病理診断の実際をご紹介します。国立がん研究センターがん情報サービスが提供している「がんの統計 '18」によりますと、わが国の女性のがん罹患数の2018年推計値は43万8千700例で、部位別では乳房が最も多く、全体の20%を占める8万6千500例です。2018年の1年間に全国で8万人を超える方が乳がん罹患したことになります。この8万例の乳がんの中に同じものは一組もなく、それぞれ性質や状態が異なります。病理診断科では、乳腺外科医が患者さんのからだから切除した乳がん組織から顕微鏡用のガラス標本作り、そのガラス標本を顕微鏡で観察し、がん細胞の形や並びといった形態情報、タンパク質などのさまざまな物質の発現状況、遺伝子解析結果を統合して、病理診断を行っています。これらの診断情報から、乳がんの治りやすさ、薬物療法の効きやすさ、追加手術の必要性などを知ることができます。当院では、乳腺外科医、乳腺腫瘍内科医、乳がん看護認定看護師などのさまざまなスタッフが、患者さん、ご家族と診断情報を共有し、患者さん一人一人の希望を受け止め、最善の治療法が選択できるよう努めています。

病理診断科のスタッフは患者さんに直接お会いすることは少ないのですが、適切な治療が行われるための情報を提供し、顕微鏡越しに患者さんを応援しています。



周術期センター の紹介



周術期センター師長
黒沢 伸子

こんにちは、周術期センターです。

周術期センターは、「安全・安心・快適な周術期環境づくり」を目標に2018年1月に開設されました。「周術期」とは、術前から術後の一連の期間の総称です。

最近が高齢化が進み、心臓病・糖尿病・呼吸障害などの既往症をもつ方が多く、リスクによっては、術前から対応が必要な場合もあります。そこで、これらの問題を解決し、患者さんが安心して手術を受けられるように、主治医、麻酔科医、看護師、栄養士、理学療法士、歯科医、薬剤師などが連携して、周術期のケアやサポートを行う「周術期センター」が設立されました。

周術期センターでは、外来で手術が決まった時点から、手術に向け心身の準備をサポートし、術中・術後は、さまざまな職種が早期回復を目指した介入をします。

このことにより、手術による治療効果を高めています。

現在は、消化器外科(食道がん)、頭頸部外科・口腔外科(マイクログ外科再建を伴う手術、喉頭全摘術)、泌尿器科(前立腺全摘ダビンチ手術)、婦人科を中心にサポートを行っています。専用のチェックリストを用いての全身状態のスクリーニング、患者・家族へ手術に向けた意思決定支援、禁酒・禁煙指導、術前オリエンテーションの実施、外来、病棟、手術室、HCUとの連携、他部門との調整や統括を行っています。担当医に聞けなかったことやちょっとした疑問、不安などにもお答えしますので、お気軽にご相談ください。



通院治療センター の紹介



通院治療センター師長
秋山 洋子

通院治療センターは、外来エリア2階の西側にあります。平成25年度の新病院移転に伴い、42床から60床に増床し、名称も「デイケアセンター」から「通院治療センター」に変わりました。病床の内訳は、リクライニングチェア36床、電動ベッド24床となっています。病床60床以上の通院治療センターは少なく、全国でも多い病床数です。

利用者は、平成26年度は19,391名(1日平均75.9名)でしたが、平成30年度は24,339名(1日平均99.9名)となり、5年間で1.25倍に増加しました。

通院治療センターでは、主にがん化学療法(抗がん剤・分子標的治療薬・免疫チェックポイント阻害薬・ホルモン剤)を行っています。他に、輸血、輸液など

の治療を行うかたもあります。患者さんからは、「入院せずに治療が受けられることで、仕事が継続できる」「子どもとの時間を持つことができる」などの声をいただいています。

今後も、患者さんが安全・安楽に治療が継続できるよう、治療中の過ごし方や、副作用症状への対処方法などの提供を行い、病棟・外来・相談支援センターとの連携を図りながら、患者さんに寄り添った看護を行ってまいります。

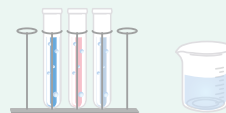


JCOGと かかわった30年

乳腺腫瘍内科 井上賢一

日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG; Japan Clinical Oncology Group)は、国立がん研究センターの「国立がん研究センター研究開発費」と、厚生労働科学研究費の「革新的がん医療実用化研究事業」に基づいて運営されている研究組織(非営利の任意団体)で、国立がん研究センター研究支援センターが研究を直接支援するがん16の専門分野別の臨床試験実施グループの研究組織です。日本全国の約190の医療機関が参加しています。癌診療の発展のためには、エビデンス作りのために臨床試験が不可欠です。臨床試験には、主に企業(製薬業や器械製造業)が主体的に行う治験と医療者主導の治療研究(薬物、手術、放射線療法や内視鏡など)があります。後者において、企業のサポートを受けずに、が

ん治療の標準治療確立のための日本で最大の研究を行うグループが、JCOGです。私が、埼玉県立がんセンターに赴任した1988年の翌々年1990年に、「がんの集学的治療の研究」班の主任研究者下山正徳先生がJCOGと命名し、1991年に統計センター(現データセンター)を設置しました。奇しくも、私のがん診療の経歴とあゆみを同じくして、たくさんのことをJCOGから学ばせていただきました。臨床試験で大切な点は、①患者にとって価値あるクリニカルクエスチョン、②言葉を大事にして誰にでも分かるようなプロトコル作成、③プロトコル通りに研究を遂行、④データのチェック機能と解析、⑤発表や論文作成、にあります。一方、患者はボランティアで臨床研究に参加します。私は、一番真摯な態度で研究に取り組んでいるのがJCOGであると考えます。そのこともあり私は、今までに100人以上の患者を、JCOG試験にエントリーしてきました。最後に、納得していただき当センターのJCOG試験の参加へのお願いすることと供に、今まで試験に参加していただいた、患者やその家族そして試験を支えていただいた方々に、感謝いたします。



研 究 所

から



臨床腫瘍研究所では、毎年高校生対象のサイエンススクールを開催しています。今年は8月24日(土)に「ひらめき☆ときめきサイエンス がん研究入門～がん細胞の遺伝子解析実習」を、日本学術振興会の支援を受けて開催しました。テーマは、がん細胞の遺伝子解析です。培養肺がん細胞からDNAを抽出し、がん遺伝子の変異を検出することで、抗がん剤の効果予測を自分の手でやってみようというものです。高校生たちは、はじめは神秘的な表情でしたが、班ごとに研究室へ分かれ実験着を着てピペットを握ると、眼が変わってくるのがわかります。実験の後は、結果をもとにしてディスカッションです。生徒それぞれの個性が交わり合って作成したレポートをもとに、発表会がおこなわれました。

(生田 統悟 主任研究員)

第10回がんサイエンスサロンは、令和2年1月18日(土)に開催します。外部講師による講演とがん細胞を使った実習の二部構成です。講演はかねてより要望の多かったがん免疫療法について、国立がん研究センターより北野滋之先生をお招きし、がん免疫療法についてお話いただきます。実習は研究用がん細胞を用いた体験講座です。県民の方だけでなく、病院職員の方も勉強になる内容だと思います。参加申し込みは、11月1日から、彩の国だよりや病院内での掲示で告知します。多くの方の参加をお待ちしております。

(杉野 隆一 主任)



「埼玉県民のための“がんの集い” in 白岡」
を開催しました。

&

「埼玉県民のための“がんの集い” in 羽生」
及び
「第44回 埼玉県民のための“がんの集い”」
を開催します。

趣旨

当センターでは、毎年県民の方を対象に、がん治療の啓発と普及を目的とする“がんの集い”を開催しています。また、平成30年度から、より身近な場所でも開催して欲しいという御要望にお応えし、1月のメインイベントの他に、別地域でのサテライトイベント（ミニ講演）を実施しています。



テーマ

「最新!!ロボット手術 ～ここまで進んだがん治療～」



開催案内	【サテライトイベント】 埼玉県民のための“がんの集い”		【メインイベント】 第44回 埼玉県民のための “がんの集い”
	in 白岡 (※終了しました。)	in 羽生	
開催日時	令和元年10月19日（土） 14:00～15:30	令和元年11月9日（土） 14:00～15:30	令和2年1月25日（土） 13:00～16:00
開催場所	白岡市生涯学習センター 「こもれびの森」 1階多目的ホール	羽生市民プラザ 1階 イベントホール	大宮ソニックシティ ホール棟4階 国際会議室
申込受付開始	令和元年9月1日（日）～		令和元年12月1日（日）～
申込み方法	はがき又は電子メールにて、氏名、住所、電話番号、参加人数を明記のうえ、当センター「がんの集い」係までお申し込みください。 また、当センター1階「総合案内」でも受付けています。 ● 郵便： 〒362-0806 北足立郡伊奈町大字小室780番地 ● メール： n221111@pref.saitama.lg.jp		

後援

埼玉県医師会、埼玉県健康づくり事業団、埼玉新聞社、南埼玉郡市医師会（in 白岡）、北埼玉医師会（in 羽生）

講習内容

最新のロボット支援下のがん手術などについて、当センターの医師等が講演します。
難しい内容をわかりやすく講演するよう企画していますので、どなたでもお気軽にご参加ください。